

笑顔が一番

令和7年 8月

今江こども園

二木 恵子

まだまだ、毎日暑い日が続きます。「前はこうだった」は、もう通じないのかもしれませんが。日本の夏はこうなのだと割りきって、行動を考えたほうがいいですね。子ども達にとっては、今がすべてです。楽しく過ごしていけるよう、園の活動を工夫していきます。



子育てハッピーアドバイス 2

7月に、お話しました、明橋 大二さんの「子育てハッピーアドバイス」の「輝ける子に育てるために、大人ができること」の3つ目と4つ目をお伝えします。

子育ては、これが正解というのはありません。悩みの連続です、悩んだ時に、この本のようなアドバイスがあると、お母さんの心が少し軽くなるのではと思います。完璧に出来なくていいので、読んで下さいね。

また、前回でも言いましたが、園児だけでなく上のお子さん、大人にも通ずることかなと思いながら書いています。

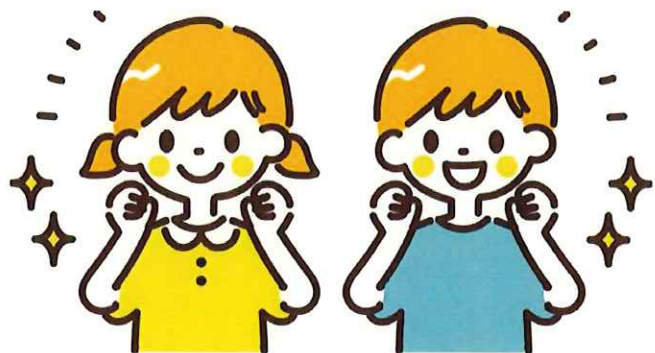
輝ける子に育てるために、大人ができること 3

「がんばれ」より「がんばってるね」と、認めるほうがいい

私達は、よく子どもに「がんばれ」と言います。先生が連絡帳に、最後に書くのも、たいてい「がんばりましょう」です。確かに、「がんばれ」と言われて頑張ろうと思えることもあります、よけい辛くなる時もあるので、気をつけなくてはなりません。

それは、これ以上頑張れないほど、頑張っているのに「がんばれ」と言われた時です。

子ども達は、園（学校）で、充分頑張っています。



「がんばれ」「がんばれ」だけでなく、「〇〇ちゃんも、がんばってるね」と言ったほうが、かえって元気が出ます。

「がんばれ」という言葉は相手を選びます。だけど、「がんばってるね」「よくがんばったね」という言葉を言っていけない人は、ありません。

「がんばれ」よりは、「がんばっているね」と、相手のがんばりを認めてねぎらう言葉を、よく使うようにしてはどうでしょう。

輝ける子に育てるために、大人ができること 4

「ありがとう」という言葉を、どんどん使おう



「ありがとう」という言葉は、人間関係の基本です。

特に、自己評価が低く、心配な症状を出したり、気になる行動をしたりしがちな子どもは、「自分なんか、何の役にも立たない」「何もとりえがない」と思っています。

そういう子どもは、「ありがとう」「助かったよ」「うれしいよ」と言われると、すごく嬉しそう

な顔をします。「自分の存在は、親の役に立つんだ」「親をよろこばせることができるんだ」と自己肯定感が高くなっていきます。

大人は、子どもには、「ありがとうは？ありがとうは？」とよく求めます。しかし、大人から子どもに、「ありがとう」と言うことは、案外、少ないのではないのでしょうか。

ちょっとしたことも認めて、子どもに「ありがとう」という言葉を、もっともっとかけていくことが大切です。

以上、輝ける子に育てるために、大人ができること

- 1, 赤ちゃんならば、スキンシップ
- 2, 話を聞く
- 3, 「がんばれ」より、「がんばってるね」と認めるほうがいい
- 4, 「ありがとう」という言葉を、どんどん使おう



どれも、心掛けしだけで、時間も手間もかからない事ばかりですね。私達（保護者の皆さん）のところに生まれて来てくれた可愛い子ども達のために、今から出来ることから始めましょう。